

研究・調査報告書

報告書番号	担当
508	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and breast cancer recurrence and survival among women with early-stage breast cancer: the life after cancer epidemiology study. 女性乳がん早期ステージにおける飲酒と乳がん再発リスクについて	
執筆者:	
Kwan ML, Kushi LH, Weltzien E, Tam EK, Castillo A, Sweeney C, Caan BJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Oncol. 2010 Oct 10;28(29):4410-6.	
キーワード	
飲酒、乳がん再発、乳がん死亡、女性	
要 旨	
目的: 女性乳がん早期ステージにおける飲酒と乳がん再発リスクを明らかにする。	
方法: 1997年から2000年に乳がん早期ステージを診断されて2年以内の女性1,897人を対象としたLACE研究において、食事摂取頻度の質問票により評価した飲酒量と乳がん再発のリスクを検討した。コックス回帰モデルにて、飲酒による純循環器疾患発症の多変量調整ハザード比(HR)、95%信頼区間(95%CI)を算出した。	
結果: 平均追跡期間7.4年の間に乳がん再発293例、総死亡273例を確認した。一日当たり0.5g以上の飲酒者は51%であった。飲酒者の89%はワイン飲酒であった。非飲酒者と比較すると一日6g以上の飲酒者は乳がん再発のリスク(HR(95%CI)=1.35(1.00-1.83))も、乳がん死亡リスク(HR(95%CI)=1.51(1.00-2.29))も増加していた。乳がん再発のリスクの増加は閉経後女性(HR(95%CI)=1.51(1.05-2.19))や肥満女性(HR(95%CI)=1.6(1.08-2.38))でより強く認められた。飲酒と総死亡の関連は認められず、乳がん以外の死亡リスクを軽減する可能性が示唆された。	
結論: 一週間あたり3, 4杯以上の飲酒は乳がん再発のリスクを増加する可能性が示唆され、その影響は閉経後女性や肥満女性でより強く認められた。しかし、乳がん以外の死亡については予防的な作用が示唆された。	